

## 平成26年度授業シラバスの詳細内容

科目名(英)	ゼミナールⅡB (SeminarⅡB)		授業コード	E002502
担当教員名	徂徠 三十六		科目ナンバリングコード	E21202
配当学年	2	開講期	後期	
必修・選択区分	必修	単位数	2	
履修上の注意または履修条件	ゼミナール募集の手続きに沿って志望すること。			
受講心得				
教科書	ゼミのなかで指示します			
参考文献及び指定図書	川上 元郎、小松 原仁「新版 色の常識 第2版」(日本規格協会) 越智 宏、黒田 英夫「図解でわかる画像圧縮技術」(日本実業出版社) 大村平「確率のはなし」(日科技連) 徂徠三十六ほか「生産情報システムの基礎」(泉文堂) 鳥脇純一郎「情報数学」(オーム社) □れ以外は必要に応じてゼミのなかで指示します。			
関連科目	情報リテラシー1、情報リテラシー2、統計学			

授業の目的	情報処理の場面における人間と情報機器(コンピュータなど)とのインターフェースを考えます。その際の人間の感覚・知覚特性、さらに進めて認知特性がどのようなものであるかを解明するのが、当ゼミの最終目的です。(ただし心理学的過程の解明までは及びません) その目的のために必要な事項を引き続き学習します。
授業の概要	

○授業計画	
学修内容	学修課題(予習・復習)
第1週：時間の知覚 心理的時間とは	配布プリントによる
第2週：時間の知覚 時間評価の実験法	配布プリントによる
第3週：時間の知覚 情報機器と時間評価	配布プリントによる
第4週：時間の知覚 「パーソナルテンポ」、「タイミング」について	配布プリントによる
第5週：時間の知覚 2つのパラダイム---予期時間と追想時間	配布プリントによる
第6週：時間の知覚 過去の研究例とそこからの結論	配布プリントによる
第7週：時間の知覚 タイプAとは？	配布プリントによる
第8週：時間の知覚 タイプAと時間知覚	配布プリントによる
第9週：時間の知覚 具体的研究 その1	配布プリントによる

第10週：時間の知覚 具体的研究 その2		配布プリントによる
第11週：「人間工学」「作業研究」「経営工学」その1 人間と情報機器		配布プリントによる
第12週：「人間工学」「作業研究」「経営工学」その2 人間の仕組みと特性		配布プリントによる
第13週：「人間工学」「作業研究」「経営工学」その3 「表示器」		配布プリントによる
第14週：「人間工学」「作業研究」「経営工学」その4 「操作器」		配布プリントによる
第15週：「人間工学」「作業研究」「経営工学」その5 マンマシンインターフェースと情報機器		配布プリントによる
第16週：		
授業の運営方法	(1) 授業の形式	「演習等形式」
	(2) 複数担当の場合の方式	
	(3) アクティブ・ラーニング	
備考		

○単位を修得するために達成すべき到達目標	
【関心・意欲・態度】	自主的積極的に問題解決に取り組む姿勢を育む。
【知識・理解】	卒業研究をまとめるに必要な基礎知識を身につける。
【技能・表現・コミュニケーション】	卒業研究内容をわかりやすく説明する技術を習得する。
【思考・判断・創造】	数理的・論理的思考力を身につけ、それによる問題解決能力を備える。

○成績評価基準(合計100点)			合計欄	100点
到達目標の各観点と成績評価方法の関係および配点	期末試験・中間確認等 (テスト)	レポート・作品等 (提出物)	発表・その他 (無形成果)	
<b>【関心・意欲・態度】</b> ※「学修に取り組む姿勢・意欲」を含む。			20点	
<b>【知識・理解】</b> ※「専門能力(知識の獲得)」を含む。		40点		
<b>【技能・表現・コミュニケーション】</b> ※「専門能力(知識の活用)」「チームで働く力」「前に踏み出す力」を含む。		20点		
<b>【思考・判断・創造】</b> ※「考え抜く力」を含む。		20点		
<b>(「人間力」について)</b> ※以上の観点に、「こころの力」(自己の能力を最大限に発揮するとともに、「自分自身」「他者」「自然」「文化」等との望ましい関係を築き、人格の向上を目指す能力)と「職業能力」(職業観、読解力、論理的思考、表現能力など、産業界の一員となり地域・社会に貢献するために必要な能力)を加えた能力が「人間力」です。				

○配点の明確でない成績評価方法における評価の実施方法と達成水準の目安	
成績評価方法	評価の実施方法と達成水準の目安
レポート・作品等 (提出物)	認知科学関連課題のレポート
発表・その他 (無形成果)	出席